

第二回 家庭教育学級をふりかえって

松原小学校 PTA

家庭教育学級委員長 光永 智美

副委員長 佐藤 瑞穂

9月11日(水)に、第二回家庭教育学級が開催されました。今回は「生きる基礎が決まる? ~一人でできる子の育て方~」をテーマに、はなまる学習会 野外体験部の箕浦健治様にご講演いただきました。たくさんお話いただいた中から、ごく一部ですがご紹介いたします。

《親がいなくなっても生きていける子供に育てるには》

●究極の目標は親がいなくなっても生きていける子に育てる事

現代社会の大きな問題は「引きこもり、ニート」がいる事。

(現在200万人~300万人に増えてきている。例えば学校の1クラスに1人が2人いる状態)

入社後3年以内35%、1年以内15%も退職をしている。社会に出たらあるのは、生身の人間との付き合いだけ。そこで信頼関係を作っていくことができない。コミュニケーションがとれない、自己肯定感の低さが原因のひとつ。

今の子は自分に合った場所があると思っている。自分に合わなければすぐに仕事を辞めてしまう。自分に合う場所探しではなく、そこに自分を合わせる努力を教えていかななくてはならない。

⇒異性に対しての例でいうと、『高校生対象に“好きな人、付き合っている人がいるか?”』とアンケート! 7割の人が『はい!』と答えた⇒が半分は2次元の彼女やアイドル(マンガやタブレット上の彼女など)だった。自分の理想にピッタリと合う子しか受け入れられない。ピッタリ合う子がいると思っている事が理由である。

《4歳から9歳で人生を生きる基礎が決まる》

おたまじゃくし

カエル

	幼児期		青年期	荒波の社会
0~3	4~9	10	11~18	22、23~

●子どもとはどういう生き物かを知ることが大切

子どもは変態する生き物である。4~9歳はおたまじゃくし、11~18歳はカエルと例えられる。

幼少期に多くの大人にかかわった子ほど、20歳で夢がある子に育っている事例がある。

たくさんの人とのコミュニケーションや、親以外の友人などで相談やケンカできる相手がいる事が大事。

●子どもが大人に求めているものは、**基準!**

- ・夫婦が同じ意見であること
⇒親がブレない
- ・ものを買うタイミングを決める
⇒がまんをさせる
- ・起きる時間、寝る時間を決める
⇒1番大事

●国語力は家庭の会話でまると

- ・会話の中で間違いがあれば、言い直させる。

●お母さんができる事

- ・母は太陽であること
- ・叱り方で子供の人格が決まる
『厳しく、短く、あと引かず』が理想の叱り方
- ・行為は叱っても、人格を否定してはいけない

●お父さんができること

- ・忙しくても4~9歳の時に一生懸命遊ぶことを忘れずに(年に1~2回でもよい)

- ・4~9歳は、失敗がたくさんある時期、大人がどう助けるかで成長できる。
- ・いつもやれている事でも、1日1つはほめる。
- ・がまんをさせる事も大事。

《最後に先生からメッセージ》

「子どもを育てるには、村1つ必要だ」この言葉は、私を叱咤激励してくれる大切な人から頂いた言葉です。この言葉が持つ意味は深く、子育ての原点ともいえる言葉だと思っております。お母さん、お父さんが1人で頑張る必要はありません。子どもは、大人に愛された分の優しさと生き方を学びます。正しい子育てはありません。世界に1つだけの子育てを私は応援しています。目の前で微笑む子どもたちの後ろにある、輝く未来を信じて、一緒に悩み、考え、そして少しずつ前に進んでいきましょう。